

1-2 町民意向

(1) 世羅町まちづくりに関するアンケート調査の概要

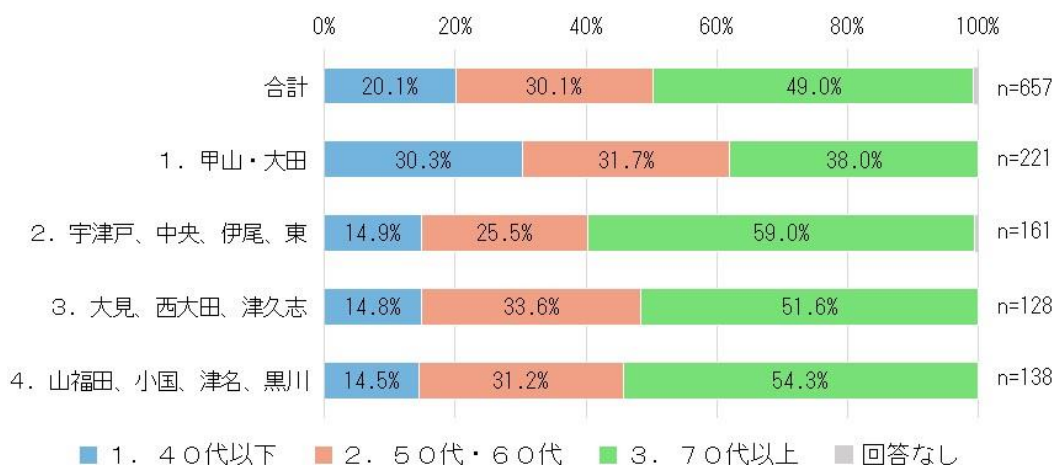
ア) 調査対象

調査対象（抽出先）は18歳以上の町民1,500人を無作為に抽出しました。

イ) 調査概況

調査期間	調査方法	配布数	回収数	回収率
令和5(2023)年10月10日から 令和5(2023)年10月31日まで	郵送法	1,500票	657票	43.80%
	郵送による回答：579 インターネットによる回答：78			
設 問 概 要	アンケート設問は「個人属性」・「都市施設の利用頻度・移動手段」・「日常の移動」・「居住と災害対策」等について、全13問を設定しています。			
	問1) 年齢 問2) 家族構成 問3) 居住地 問4) 永住意向 問5) 各施設の利用頻度と主な移動手段 問6) 中心部に必要な施設となくともよい施設 問7) 自治センターの活用方法	問8) 自家用車の所有状況 問9) 送迎してくれる人の状況 問10) 乗り合いタクシーの利用状況 問11) 徒歩による移動可能時間 問12) ハザードエリアにおける居住や都市機能立地の考え方 問13) まちづくりに関する意見		

回答者の年齢層及び居住地（問3、問4）



※5.0%未満のラベルは数値を省略

※地域別は都市計画区域を有する甲山・大田地区と、この両地区を除く地区で分類

※年代別は若者世代（40代以下）、中年世代（50代・60代）、シニア世代（70代以上）で分類

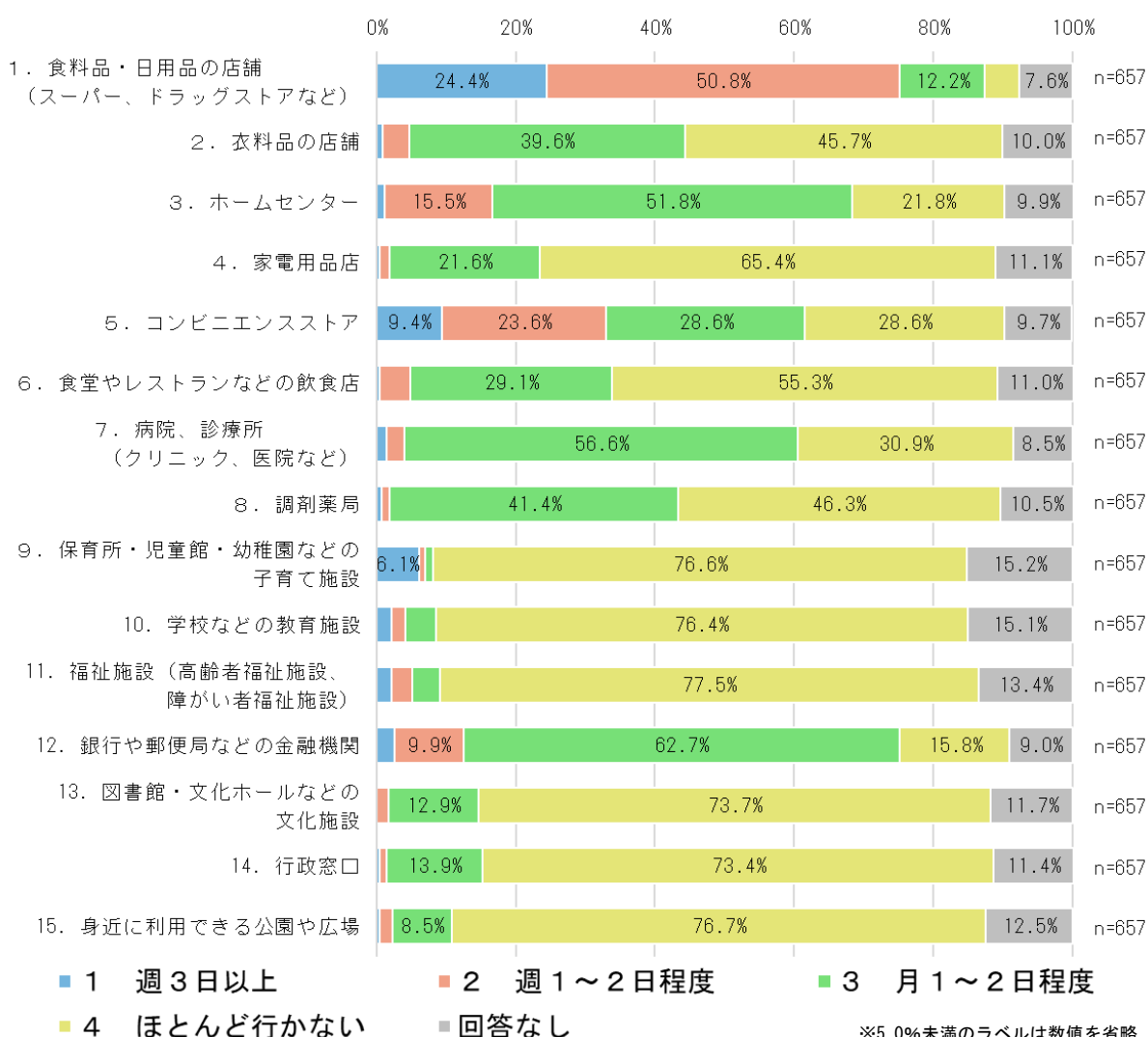
（２）調査結果の概要

（詳しくは資料編をご覧ください）

ア）生活関連施設について

- 利用頻度が最も高い施設は食料品・日用品の店舗で、週に1～2日以上利用している回答者が全体で8割弱、いずれの地域・年代においても5割以上を占めています。
- その他、比較的使用頻度が高い（月1～2日以上の利用が半数を超えている）施設は、ホームセンター、コンビニエンスストア、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関となっています。
- 現在の居住地域に住み続ける意向がある人がほとんどである（問4）一方で、約2割の人が「特に不便で困っている施設がある」（問5-2）と感じています。
- 役場周辺（町中心部）に必要な施設は、「食料品・日用品の店舗」、「病院、診療所」、「銀行や郵便局などの金融機関」の3種類が顕著に多くなっています。これらの施設は現在特に不便で困っている施設としても多く挙げられています。
- 衣料品の店舗、身近に利用できる公園や広場は、役場周辺（町中心部）になくてもよいという回答者が多い一方、特に不便で困っている施設としても多く挙げられています。
- 身近に利用できる公園や広場は若者世代（40代以下）の利用頻度が他の年代に比べ高く、シニア世代（70代以上）において特に不便で困っている施設として多く挙がっています。

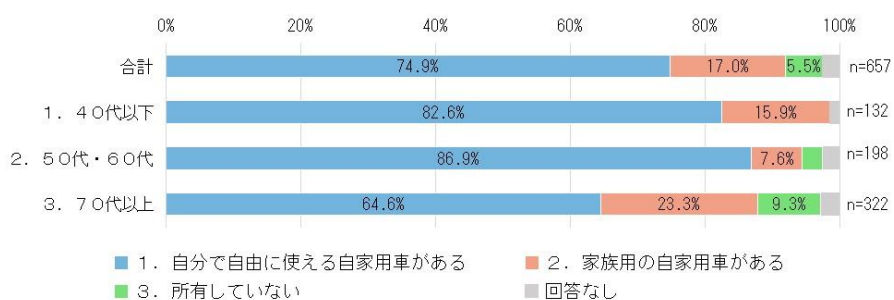
各施設の利用頻度（問5）



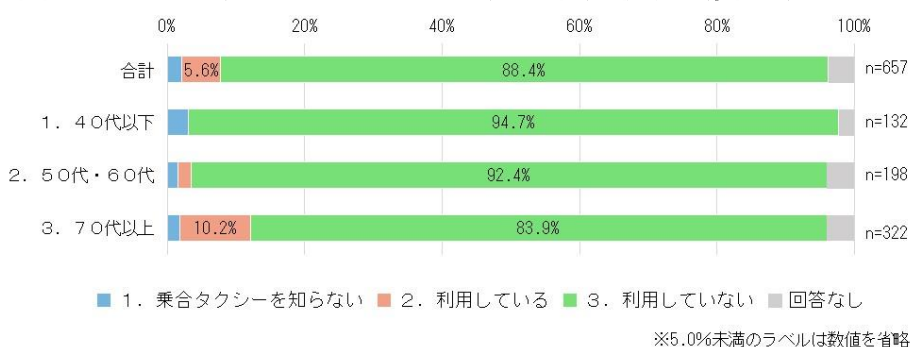
イ) 日常の移動について

- 利用頻度が最も高い施設は食料品・日用品の店舗で、週に1～2日以上利用している回答者が全体で8割弱、いずれの地域・年代においても5割以上を占めています。
- その他、比較的使用頻度が高い（月1～2日以上の利用が半数を超えている）施設は、ホームセンター、コンビニエンスストア、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関となっています。
- 現在の居住地域に住み続ける意向がある人がほとんどである（問4）一方で、約2割の人が「特に不便で困っている施設がある」（問5 - 2）と感じています。
- 役場周辺（町中心部）に必要な施設は、「食料品・日用品の店舗」、「病院、診療所」、「銀行や郵便局などの金融機関」の3種類が顕著に多くなっています。これらの施設は現在特に不便で困っている施設としても多く挙げられています。
- 衣料品の店舗、身近に利用できる公園や広場は、役場周辺（町中心部）になくてもよいという回答者が多い一方、特に不便で困っている施設としても多く挙げられています。
- 身近に利用できる公園や広場は若者世代（40代以下）の利用頻度が他の年代に比べ高く、シニア世代（70代以上）において特に不便で困っている施設としても多く挙がっています。

自家用車の所有状況（問8）



乗合タクシー（せらまちタクシー）の利用状況（問10）



ウ) 今後の規制の在り方について（問12）

- 災害のおそれがある地域における、住まいや都市機能の立地の在り方について、規制を支持する意見が4割台半ばを占める一方、住むかどうかは町民の判断とし、行政が規制すべきではないとの回答も2割弱を占めています。

